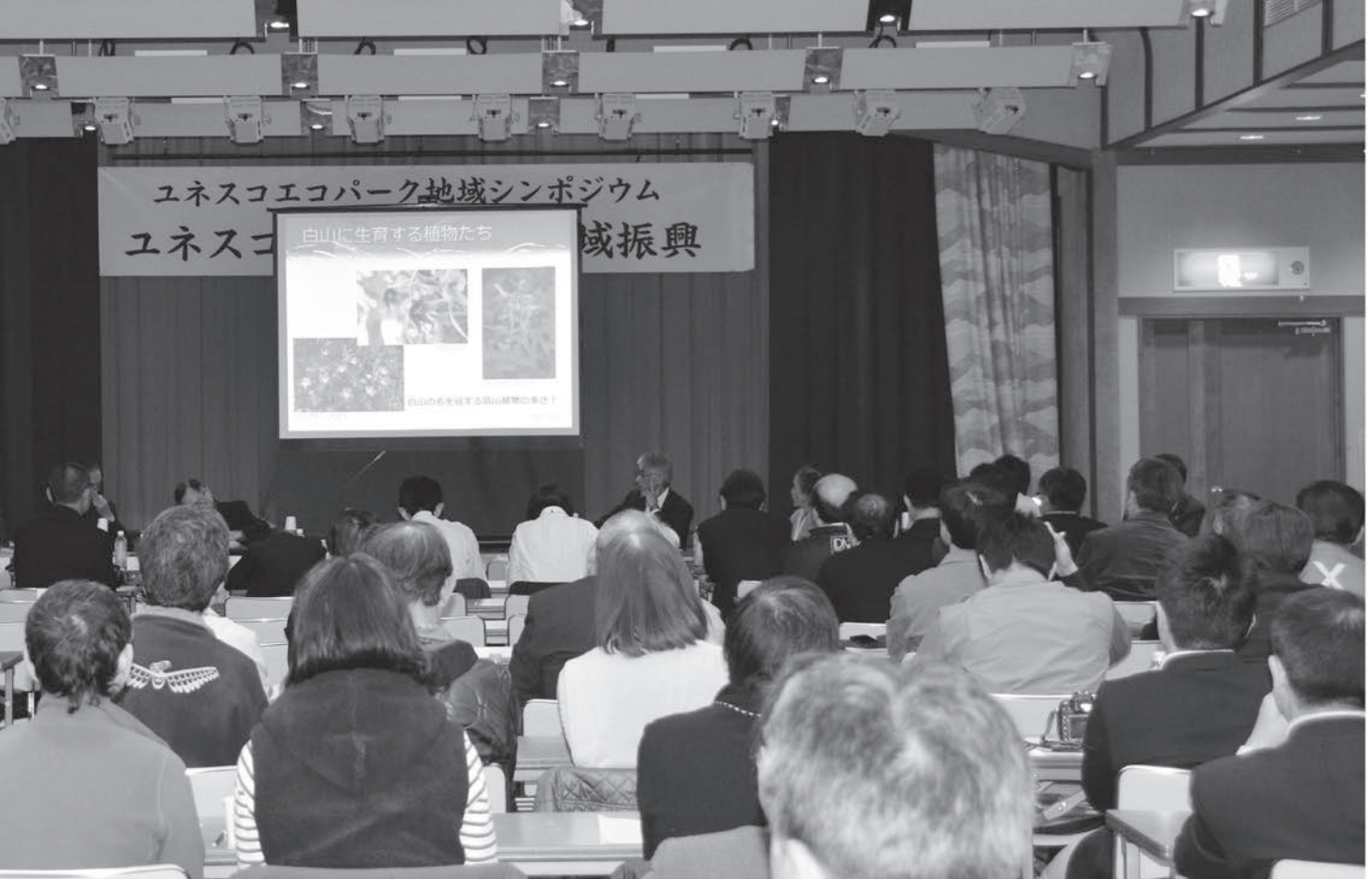


ユネスコエコパーク地域シンポジウム 『ユネスコエコパークと地域振興』



ユネスコエコパーク地域シンポジウムは、多くの方に制度の概要や自然と共存するまちづくりについて理解を深めてもらうため10月27日に季の郷湯ら里を会場に町が主催となり開催しました。シンポジウムには町内外から約百名の参加者があり、開催にあたり目黒町長は「只見町はユネスコエコパークを活用したモデル地域を目指す。そのためには地元の方々の理解や協力、参加が必要です。」と述べると文部科学省日本ユネスコ国内委員会の加藤事務総長からの「ユネスコエコパークは循環型地域を作る地域振興手段の一つです。この制度への理解を深めて頂き地域振興に向けた取り組みを行なって欲しい」というメッセージが伝えられました。

シンポジウムは「ユネスコエコパークと地域振興」をテーマに第1部として日本ユネスコ国内委員会MAB分科会委員を務める佐藤哲氏による基調講演が行われ、第2部は「ユネスコエコパークの活用事例」として綾町や志賀高原などからエコパークの効果や取組みについて発表されました。第3部のパネルディスカッションでは来場者からの質問に答える他、ユネスコエコパーク活動の活性化や認知度向上についてどのように取り組んでいけば良いかなどが話し合われました。また、これからは自然を守るだけではなく、自然と人が共に生きていく社会が重要になるという意見も発表されました。

文部科学省主催のネットワーク会議とあわせ3日間にわたる会議となりましたが、国内ユネスコエコパーク担当者が情報・意見を交換する事が出来た非常に意義のある会議となりました。



▲ネットワーク会議のようす

10月25、26日の両日、季の郷湯ら里を会場に文部科学省、日本ユネスコ国内委員会主催の日本ユネスコエコパークネットワーク会議の初会合が開催されました。登録されている「志賀高原」「白山」「大台ヶ原・大峰山」「綾」「屋久島」と新規登録推薦中の「南アルプス」「只見」の関係者が集まり各地域における取組み等の発表や今後活動を活発化していくためにはどうしていけば良いのかなどの意見交換が行われ、国内におけるユネスコエコパーク活動の推進が図られました。



国際的な仕組みを

取り入れ使いこなす
地域環境知と

ユネスコエコパーク
日本ユネスコ国内委員会
MAB分科会委員

佐藤 哲 氏



ユネスコエコパークは地域での取組みが非常に大切である。特に移行地域が非常に大切で、これは地域の人々が主役となって作っていく必要がある。エコパークを活かすには地域の力が無くてはならないが、結果は急がずに、少しずつ焦らずゆつくりと、でも着実に工夫を積み重ねていき地域がゆるやかに発展し生活が向上する事で、子どもたちが住みたい、帰ってきたいと思えるような素晴らしいふるさとを育んで欲しいと考える。

ユネスコエコパークの

活用事例
「綾ユネスコエコパーク」

宮崎県綾町役場企画財政課
照葉樹林文化推進専門監

河野 耕三 氏



綾町では経済自立をする為に照葉樹林の保護などをゆつくり我慢をして50年に渡り続けてきた実績がある。地元の方は当初は照葉樹林に価値があるか分からなかったが外部から高い評価を受けユネスコ認定後には地元の方も故郷に対する自信と誇りを持つようになった。また、外部からの視察が増え、ふるさと納税は宮崎県を上回る金額が寄附されるようになった。現在は若く子供連れの夫婦もIターンで転入してきており人口も増えてきている。